



東京部会(第90回)

日時:	2017年4月7日(金) 19:15-21:30
場所:	日本大学経済学部本館2階A会議室
参加者:	[順不同・敬称略] 篠原総一(京都学園大学)、加藤一誠(慶応義塾大学)、杉田孝之(千葉県立津田沼高校)、岡部ちはる(東京証券取引所)、鈴木深(東京証券取引所)、埜枝里子(東京都立府中東高校)、升野伸子(筑波大学附属中学)、中沖栄(清水書院)、後藤洋政(慶応義塾大学)、鈴木孝治(日本経済教育センター)、小屋敷晶子(読売新聞)、長澤大介(読売新聞)、新井明(上智大学非常勤講師)、以上13名。

(1) 夏の経済教室の日程と内容確認を行った。

当初予定していた名古屋会場が、NIE大会とぶつかったために8月21日と22日に変更されたことが報告された。それをうけて、各会場での講師と内容、タイトルの確認が行われた。名古屋会場の日程変更に伴う講師の変更が若干あったが、全体として講演講師、講義の講師、実践提案の先生方の変更はなく、チラシ原稿の準備、後援申請などの準備作業の日程が確認された。

(2) 読売新聞の企画の紹介とその活用法、改善などの討議を行った。

読売新聞が企画、推進している「ワークシート通信」の現状とそれにたいする現場からの意見の交換が行われた。実際に使っている現場の先生(埜枝里子先生)からは、1時間に5枚程度利用できるのも便利であること、10分の朝学習での利用もしていること、英語教材に関しては高校レベルのものをもっと欲しいという要望が出された。また、参加者から、総合学習で使うなら日本語と英語を混ぜて教材を作ったらどうかなどの意見もでた。さらに、教材についている問いかけはもっと工夫が必要で、社会科の教員のアドバイスをもらって受けたらどうかとの提案もあった。総じて、この種の教材は汎用性を狙っていることがよくも悪くも特徴なので、もっとセグメントや問いかけ方などの工夫を期待したいということで討議を終了した。

(3) 実践報告と提案がそれぞれ一つずつあった。

一つは、杉田孝之先生の「決め方を考える授業」の報告である。

この授業は主権者教育の授業シリーズの一環で、第一回目の9月の実践を踏まえて2月に行われたものである。授業では、多数決イコール民主主義なのかという問題提起からはじまり、選挙により自分たちの現在と未来を選択するに際して、選挙であらわされた民意は本当に有権者の意見なのかという問いかけをして多数決で決まる選挙の方法を吟味させるという流れで進められる。

その際、政策がパッケージで示されることに由来する選択の難しさ、そもそも多数決では候補者や政策の順位がつけられないこと、にもかかわらず多数決が絶対のように教えられる問題、さらには、政治家と有権者の情報の非対称性に由来する問題など幅広く生徒に考えさせ、これらの問題を乗り越える一つの事例としてボルダールールやオストロゴルスキーの逆理などを紹介して、どのような決め方をしたらよいかを考え、表現させる授業である。

当日、生徒の反応の紹介があったが、選挙、多数決、情報の非対称性、ボルダールールなど授業で提起された問題を深く考えた生徒やボルダールールでもパラドックスが生じてしまうケースを自分で考えた生徒の事例なども紹介され、授業を通して生徒が問題の核心をつかんでいる様子が伺えるものであった。

検討では、杉田先生が使われた「情報の非対称性」という概念に関して、経済の用語を政治現象に使うことは是非や、非対称の意味の使い方が本来の使い方とずれがありさらに検討してゆく必要があるのではないかなどの指摘がなされた。主権者教育に関する新しい視点からのユニークな実践であり、大きな可能性を秘めている実践なので今後さらに検討することとなった。

もう一つは、升野伸子先生の「日本一短い経済史」の授業提案である。



この授業提案は、夏の経済教室での発表予定のものである。内容は、経済を学ぶ最初もしくは歴史学習の最後で行う一時間の授業である。古代から現代まで5つの時代のなかで、例えば貨幣の歴史を振り返りそれを漢字一字で書かせて、なぜその言葉を使うのか意味を発表させて検討するというもので、貨幣以外には税などいろいろな事例を漢字一字で表現させて時代の特徴をつかませるとい授業である。

過去だけでなく未来に関しても書かせることで、時間軸をさらに広げることできるし、時代の特徴を横軸的にひろげることで地理学習にも使える教材にもなりうる。

十分な検討時間がとれなかったが、これもユニークな授業提案であり、夏の教室までにさらに検討してゆくこととなった。

(4) 篠原先生から、大阪三国丘高の大塚雅之先生の公共財ゲームとディベート実践の資料の紹介があった。そのなかで、囚人のジレンマを組み込んだゲームに関しては、教室の授業で複数人が行う場合複雑になりすぎて、それを通して何を教えるかがわかりにくくなってしまいう実践が多いので、二人ゲームで単純にして学ぶ内容がクリアに分かるような教材開発の必要性が指摘された。

(5) 今回は、内容的にレベルの高い実践報告とその検討がされ、その成果をさらにブラッシュアップして発信してゆく新たな課題が提起された部会であったといえよう。(文責:新井)

次回開催予定:17年5月19日(金)19:00~21:00。場所は日本大学経済学部。議題は、夏の教室準備経過報告、教材に関するディスカッション、情報交換など。なお、6月は22日(木)、7月は14日(金)の予定。場所は未定。